

研修会・講習会

2017 スキルアップ研修会 開催/参加 報告

----- 「兵庫県クラブユース新人戦にて審判研修を開催」 強化育成部 -----

兵庫県クラブユース新人戦にて審判研修をおこないました。

3・4級審判員を対象に、実技指導や講義、ビデオ分析などをおこない、将来の兵庫県を支える審判員を育てることが目的です。

1泊2日の2日間。男女合わせて37名の参加。

中学1年生から、57歳のパパさんまで、意欲のある方々が参加。参加者全員で一所懸命プログラムをこなしました。

毎年、この大会にて研修会を開催させていただけていること、心より感謝いたしております。

兵庫県のサッカー界発展に少しでも貢献できるよう、審判員育成にも全力で取り組んで参ります。



次ページ以降、本研修会に参加した審判員の感想を掲載しました。



----- 「スキルアップ研修会に参加して」 4級 北條 結羽 (U-15) -----

僕は審判員になってまだ1年もたっていませんでしたが、この研修会に参加させていただきました。

今回の個人的な目標は『自信をもってジャッジする』事でした。

<1日目>

担当1試合目はメインコートで副審をさせていただきました。

初めての大きな試合での審判ということですのでとても緊張しました。途中、難しいジャッジの場面があり、平常心が乱れそうになった時もありましたが、僕の目標でもあったように自信をもってジャッジしたことで周りのかたから“ナイスジャッジだった”と褒めていただいた忘れられない経験をする事もできた試合でした。



担当2試合目もメインコートで副審をさせていただきました。担当1試合目よりも平常心でジャッジする事ができたように思います。

そして、練習試合では主審をさせていただきました。後ろにインストラクターの方がついてくださって、正直心強かったです。

ベテラン審判員の方やインストラクターの方からアドバイスをいただき、とても分かりやすく、ためになる事ばかりでした。

<2日目>

練習試合では主審をさせていただきました。

1日目と同じようにインストラクターの方がついてくださりました。ポジショニングと体の向きを指導していただきました。ルールもまだ理解しきれていない部分があることも再確認できた試合でした。

そして、第四審判もさせてもらいました。

はじめはわからないところもありましたが、少しずつ慣れてくることもできました。アディショナルタイムの表示が遅れた点が悪かったと思います。



<まとめ>

今回の研修に参加して思ったことは、まだまだ自分で理解できていないことがある事を自覚できたことです。ファウルのことやアドバンテージの適用など、これからもっと勉強して、改善していきたいと思いました。

僕の目標だった『自信をもってジャッジする』ということはクリアできたように感じています。これからはインストラクターの方々のアドバイスなどを課題として、周りの3級・2級のベテラン審判員を目指してさらに勉強していきたいと思っています。



----- 「スキルアップ研修会に参加して」 3級 渡辺 一翔 (U-18) -----

12月16日(土) 17日(日)にアスパ五色で行われたスキルアップ研修会に参加させていただきました。

この研修会には、4級～2級までの審判員が参加しており、年齢も下は中学生、上はベテラン審判員まで、年齢層も様々でした。

普段の審判の割当てでは話さない方々とお話をさせて頂いて、とても刺激になりました。

<1日目>

担当1試合目は、主審割当てをいただきました。

私ができる精一杯の表現をさせて頂きました。担当2試合目は副審を勤めさせて頂きました。

試合後はインストラクターの方と映像を見返しながら、私の反省点や改善点をご指導いただきました。私の最も改善すべき点は、『走り方』でした。審判員は見せ方も大切だと学びました。逆に私自身が気付いていなかった私の良さも映像を見返すことで知ることが出来ました。

このことにより、今後どうしていけばスキルアップが出来るのか理解できました。

<2日目>

2日目は4審と副審を担当させて頂きました。

副審では前日の試合で、自分ではあっていると思っていたラインキープが、ズれていることをご指摘いただいて、その点を注意して試合へ臨みました。

試合後に「前日の反省が活かされている」とコメントをいただき、嬉しかったです。

<まとめ>

この研修で映像での振り返りやインストラクターの皆様や上級者の皆様のご指導で私の長短所や課題が見つかりました。

また研修会で得た経験・知識を今後のスキルアップに繋げていきたいと思えます。

最後になりますが、私自身初めての兵庫県サッカー協会審判委員会の研修への参加にも関わらず歓迎していただき、インストラクターの皆様や運営協力の皆様、淡路サッカー協会の皆様には大変感謝しております。

まだまだ未熟な審判員ですが、今後も精進して少しでもスキルアップしたいと思えます。まず、走り方を直します。

この度はありがとうございました。



----- 「スキルアップ研修会に参加して」 3級 南 真二 -----

アクティブ3級に登録して約1年、遅咲きながら何ができるのか出来栄に日々悩みながらの審判活動ですが、今回淡路にて12月9日から10日(泊2日)にかけて、2017年度兵庫県スキルアップ研修会にチャレンジし、自身スキルアップできた2日間と実感しています。

研修には4級から2級審判員、約40名の審判員が7グループに分かれての研修を行いました。(私自身シニアの世代ですが)私のグループは中学生、高校生、20代の審判員と組むことになりましたが、普段の審判活動で知っている人も多く、審判団で協力するという点において初めのコミュニケーションもよくスタートすることができました。

今回の研修ではクラブユース(以下、「CY」と言う。)U14新人戦、CYルーキーリーグU13の大会に合わせ、チーム内で主審、副審、第4の審判員を割り当ていただきました。大会要項の確認、試合前のグラウンドのチェックではコーナフラッグ、ゴールの位置の修正を行いました。

初日、1試合目は第4の審判員、2試合目は副審(A1)、2日目の1試合目は副審(A2)、最後に練習試合1本のうち半分を主審と副審(A2)に分けて担当させていただきました。

初日1試合目、第4の審判員を担当したのですが、審判団の連携、コミュニケーションの課題を指摘されました。例えば、副審(A2)がフラッグアップしたオフサイドの判定に対し、主審が気付かなかった場合の対処法として旗を上げた際、頭上で大きく横に振って視覚(視野に入りやすい状況を作る)や聴覚(音)に訴えること、またより気づかせるために声を出して直接主審に知らせること。それに加えて、対面している逆サイドの副審(この場合A1)からシグナルを発する等、レフェリーチームとしていかにゲームを円滑に進めることができるかについて、みんなで話し合いました。

その他、タッチジャッジの差し違いをどう防ぐか、「正しい判定と優先は？」という課題でレフェリーサイドでも浅い角度のワンタッチは主審より副審が見えやすいのであれば副審の方が正しい判定ができていくという事例もそこでは挙がり、各場面において“どのようにして伝えるか事前にミーティングしておく”など準備が大切であることを改めて感じる事ができました。

第4の審判員として割当された試合では、ベンチのスタッフに対して、テクニカルエリアから出て指示を送っていた場面では注意できたが、判定に関する異議等については、コントロールする声掛けがうまくできなかったことが反省点となりました。

2試合目は、副審(A1)を担当しました。オフサイドの判定ミス・間違いなどなく、することができました。

2日目の1試合目は副審(A2)を担当しました。CYの3回戦は前日の情報も確認しながら挑みました。前半15分ごろポジショニングの修正でバタバタして無駄な動きで体力消耗しましたが、後半は余裕を持って行うことができました。

ハーフタイムに前半の振り返りとして、単独でオフサイドポジションにいる攻撃側競技者へ明らかなパスが出た場合、ウェイト&シーをせずにフラッグアップすべきだったことと、タッチライン際で



は密集していても見極めを早くしてジャッジするよう主審と話し合いました。その結果、後半では同じようなケースにおいてフラッグアップすることができました。判断する条件としてボールの勢いに対して芝生上のボールの失速、オフサイドポジションにいた攻撃側競技者の距離とスピードの見極めが瞬時に必要だと思いました。

反省会では、フラッグテクニックでワンタッチなど誤解を招かぬような不必要な手の動きなく基本に忠実に行うよう指導されました。

また、オフサイドの判定では、視野を広く持ち、ラインが正しいか検証しながらの動くことを指導いただき、レベルアップする必要があると感じました。普段の活動ではここまで副審のアドバイスをいただく機会も少ないので大変参考になりました。

ファウルサポート、ファウルの事象についてもラインを強く意識しすぎると視野が狭くなるので、ファウルの見極めが難しくなるところがあり、プレーごとに切り替えてバランスを考えた見方をしていきたいと思います。

最後に練習試合1本のうち半分を主審と副審(A2)を担当させていただきました。上級審判員の手ほどきを受けながら位置の修正、体の向き、視野、今意識することをアドバイス受けながら行いました。私自身近くで見ようとするあまりボールにより寄りすぎると逆に視野が狭くなり展開予測が遅れるので、ポジショニングは特に参考になりました。中盤ではボールの高さより低くゆったり(選手の邪魔をしない)と視野を確保しながら行うことやペナルティーエリア付近への走り込みなどしっかりすることでいつもバタバタ走るイメージからメリハリの利いた動きに変わりました。

副審では、オフサイドラインより右側に寄り易い癖が見つかり、ラインキープの難しさを感じつつも指摘いただいたお陰で修正していくことができました。

反省会では、主審ではファウルの見極め特に選手の手足の動きと方向が相手競技者に対してどのような影響を受けるのか、ということも考えて見極めることが大切とご指導いただきました。副審に関して試合中常にラインキープを意識していると自然とラインキープできるようになり、やがて視野が広がるとの話がありました。カテゴリーによってはスピードに差があることから慣れるための手段として必要なことと思いました。

今回の研修会での宿泊は世代の近いメンバーで同世代が抱えている悩みなど話し合う機会がありとてもよかったです。また若手の上級審判員、ユース審判員、女子審判員と接し刺激を受け有意義な研修会でした。

最後になりましたが、参加にあたり大会関係者、ご指導、運営して頂きました兵庫県サッカー協会、淡路サッカー協会の関係者の方々に心より感謝し、お礼申し上げます。

